

プロパティマネジメント システムをより鮮明にした 次世代PMS

PMSホテルシステム

(株) タップ

コモディティ化するPMS会社からホテルエンジニアリング会社へと脱皮。独自の技術力と考え方でホスピタリティ業界に貢献し続けている。約1700施設のユーザーの考えを投影したシステム作りには定評があり、高い信頼を獲得するに至っている。



代表取締役会長
林 悦男氏

東京都江東区東陽 2-2-4
マニユライフプレイス東陽町 1F
☎03-5683-5311
<https://www.tap-ic.co.jp>

2026年もインバウンドの勢いが増す中で、私は日本の宿泊特化型が世界で展開できるビジネスモデルの可能性が強くなると感じています。なぜなら、多くのインバウンドが宿泊特化型ホテルを実際に体験しているからです。宿泊特化型の合理性、便利さ、清潔、快適性そしてリーズナブルな価格等は日本独自のフォーマットであり、世界に通用すると考えています。

宿泊施設と並走する中で、その安全・安心・清潔、エコ、コンビニエンスの強みを出しやすい展開だと実感しながら、タップがいろいろな装置をつなぎ合わせる作業を担って、時間的なエコ、施設側もゲストにも

時間の制限を短くして待たせないなど、多様な技術提供を進めていけるフェーズになってきています。こうしたことを私は時間的なホスピタリティでもあると考えています。宿泊特化型が観光地にも進出することで、館内での滞在時間ではなく、エリアの滞在時間を充実させる役割も担うことになりそうです。エリア全体の中でホテル機能が変わっていく、地域全体のホスピタリティの中核施設になっていく。私の考える「エリアブランドアプリ」開発や「マイホテルマイ・オペレーション」構想などに結実しつつあると実感しています。

に強調しています。普段の生活そのものがシステム開発の方向性のヒントになるのだと。例えば、セルフとシェアという考え方も、高度情報化社会になればなるほどシェアの状況は増え、代表的にはカーシェアで、これは資産を共同利用する考え方です。身近なところでは、フードコートも今や席を取ってからオーダーすることになった。かつてはオーダーしている物を受け取ってから席探しをしていた。こういう社会習慣がテクノロジーによって変化します。新しい社会習慣をどのように提案していけるかが、タップのセールスポイントになるでしょう。

次世代PMSのわかりやすい 3つの特性

2026年は次世代PMSをリリースします。そのポイントは、「簡単・使いやすい」「多言語対応」「あらゆるモノにつながる」の3点に集約できます。いずれも文字通りの新機能を具備させています。PMS自体はすでにコモディティ化しつつあるので、先頭ランナーとしては約1700施設の導入実績で蓄積してきた技術力を、徹底的に深掘り

してきているので、その成果を実感していただきたい。私はPMSはプロパティマネジメントシステムであると考えています。資産を管理するシステムなのです。ソフトウェアだけでなく、人的資産、建物的資産、ビルディングオートメーション、メカの資産などが経営に関するあらゆるものが対象です。そうするとPMSは運営と経営の考え方に沿って資産をマネジメントするシステムである。まさに今回の次世代PMSは単なるソフトウェアという領域を超えた、資産をマネジメントする基盤となるシステムであると考えています。次世代PMSの3つの、特徴の技術的な分野に分け入っていくと、プラットフォームとしてのPMSでもあるということになり、客室の電気や温度を自動的に管理したり、精算もスマホで自分の好きなクレジットカードでできるとか、すべてのモノがつながり始めている時代に、この次世代PMSをリリースし、実際の考え方や技術を進めて、その活用を図って行きます。現在リニューアル中のリゾートホテルでは、客室、劇場、温泉、スパ、ウォータ

ーパーク、レストランなど、ひとつの街のような規模の施設にタップの次世代PMSがプラットフォームとして機能させていただくことになると思います。文字通り、単なるホテルシステムではない、プロパティをマネジメントするPMS概念と結びつくわけです。

また、開設して3年を経たタップホスピタリティラボ（沖縄（THL）の実証実験場は、ロボットマネジメントの実験を継続し、それこそPMSが単なるホテルシステムではないという事をより確信を得ることができています。様々な宿泊施設の課題やフードテックなどに関しても、リアルに技術的な実験を進める中で、今や特許も少しずつ取得し始めている。また、THLでは日本を代表するメーカーと宿泊業界との接点作りを企画し、ホスピタリティ業界にメーカーのテクノロジーの供給を促すという使命を持たせています。

PMSを軸にしてホテルエンジニアリング企業として、今後とも宿泊業界に寄り添ったサービスを提供し続けていきます。